

標識キジハタが放流されました

資源研究部 川崎信司

新たな栽培漁業対象種としての期待

ヒラメ、マダイ等、現在取り組みを進めている魚種は、事業化されて久しく、一定の放流効果はみられています。しかし、魚価の低迷等により、漁業者の皆さんからは、新たな漁業収入となり得る、栽培漁業対象魚種への強い要望があります。

キジハタは、魚価が高く、本県沿岸・近海での漁獲の実績があり、さらに、国等の研究機関により、種苗生産技術が確立しつつあることから、本県での栽培対象種としての導入が期待されています。

漁業者の皆さんの積極的な取り組み

天草漁協牛深総合支所に所属する漁業者の皆さんが、今回独立行政法人水産総合研究センターと共同の取り組みとして、キジハタの中間育成と標識放流に取組みました。

キジハタの中間育成

平成22年9月28日に岡山県玉野市の玉野栽培漁業センターから、5,000尾を搬入し、うち3,600尾を牛深沖の片島周辺に直接放流し、1,400尾を牛深総合支所にて中間育成しました。中間育成は陸上水槽(5t)2基にて、46日間行われ、その結果、キジハタ稚魚は70mmから85mmに成長しました。生残率はほぼ90%と良好でした。

キジハタの標識放流

平成22年11月12日に中間育成後生存した1,284尾を牛深沖の大島周辺に放流しました。このうち、600尾にはキジハタの移動、生残を把握するため、漁協組合員の皆さんによってダートタグが装着されています。

標識キジハタの再穂報告のお願い

今後、標識を装着して放流されたキジハタの、追跡調査が行われます。水研センターでも、次ページのようなポスターを配布し、再捕のデータをお願いしています。もし、タグつきのキジハタを目にされた方は、県水産研究センターまでお知らせください。

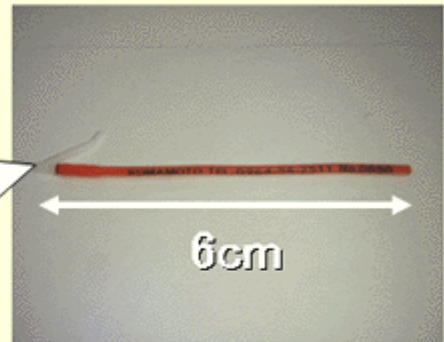


図1 放流状況



図2 標識を装着したキジハタ

標識の付いたキジハタを 探しています



標識番号

No.0001～No.0600

キジハタ人工種苗の移動を調べるため、天草市牛深地先に標識を付けたキジハタ600尾を放流しました(平成22年11月)。

～お知らせいただきたいこと～

- 1 捕れた日、場所、捕った方法(釣り、刺網など)
- 2 大きさ(全長、体重)
- 3 標識の番号

連絡先

熊本県水産研究センター 資源研究部 担当:森下

〒869-3603 熊本県上天草市大矢野町中2450番地2

TEL:0964-56-2511 FAX:0964-56-4533

図3 標識キジハタ再捕報告以来のポスター